

三木市埋蔵文化財発掘調査報告書

－平成29年度～令和2年度－

令和5年3月

三木市教育委員会



三木市埋蔵文化財発掘調査報告書

－平成29年度～令和2年度－

令和5年3月

三木市教育委員会



## 序

播磨東端部に位置する三木市は、加古川より分かれ市内を東西に貫流する美嚢川の豊かな恵みにより、太古より多くの人々が生活を営み、特色ある歴史や文化を育んできました。

今も市内の各所には、その傍証となる埋蔵文化財が数多く残っています。これら埋蔵文化財は、三木に生きた私たち祖先が歩んできた足跡であり、その歴史や文化を解明するためにかけがえのない財産といえます。このように祖先の人々が残してきた貴重な埋蔵文化財を適切に保存・調査し、後世の人々に伝えていくことが私たちの重要な役目と考えています。

本書は、平成29年度～令和2年度に三木市教育委員会が実施した市内遺跡の発掘調査のうち、主に個人住宅・民間開発に伴い実施した確認調査・試掘調査等の調査成果を報告しています。この報告書が、三木の歴史の一端の解明に役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、現地調査及び本書の作成にあたり、格段のご指導とご助言、ご協力をいただいた多くの関係者の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。

令和5年3月

三木市教育委員会



## 例　言

- 1 本書は、平成 29 年度～令和 2 年度に三木市教育委員会が実施した市内遺跡の発掘調査の報告書である。本書では、主に個人住宅・民間開発に伴い実施した確認調査を中心に、調査成果を報告している。
- 2 整理作業及び報告書作成は、市単独事業として、三木市教育委員会が令和 4 年度に実施した。
- 3 調査主体：三木市教育委員会。各年度における調査体制は、次のとおりである。

平成 29 年度

〔事務局〕教育長 松本明紀（7月3日まで）、教育企画部長 西本則彦、文化スポーツ振興課長 高嶋信行、主査 前田幹夫

〔調査担当〕文化スポーツ振興課主任 金松誠

平成 30 年度

〔事務局〕教育長 西本則彦、教育総務部長 石田英之、文化・スポーツ課長 森本雅彦、係長 前田幹夫

〔調査担当〕文化・スポーツ課主任 金松誠

令和元年度・2 年度

〔事務局〕教育長 西本則彦、教育総務部長 石田英之、文化・スポーツ課長 金井善純、係長 前田幹夫

〔調査担当〕文化・スポーツ課主任 金松誠

令和 4 年度

〔事務局〕教育長 大北由美、教育総務部長 本岡忠明、文化・スポーツ課長 金井善純

〔調査担当〕文化・スポーツ課係長 金松誠、学芸員 中西信

- 4 本書の編集は、金松誠が行った。執筆は、金松誠・中西信（第 5 章第 3 節 8（4）のみ）が行った。

- 5 遺物の実測は、中西信・舟坂祐香（埋蔵文化財調査補助員）が行い、挿図のトレースは金松誠・舟坂祐香が行った。

- 6 遺物の写真撮影は、中西信が行った。

- 7 本書に使用した地図は、三木市発行の 1/10000 及び 1/2500 都市計画図である。

- 8 本書における方位は、座標北を表し、レベル高はすべて海拔高（T.P.）を表す。

9 発掘調査で得た出土遺物及び図面・写真は、三木市立みき歴史資料館において保管している。

## 目 次

### 序

#### 例言

#### 第1章 発掘調査の動向—平成29年度～令和2年度—

第1節 三木市の位置と環境	1
第2節 平成29年度～令和2年度の発掘調査	4

#### 第2章 調査の成果（平成29年度）

第1節 加佐町田遺跡	6
第2節 三木城跡	9
第3節 平田東山畠遺跡第2地点	11
第4節 加佐廣垣遺跡	14
第5節 三木城新城跡	16

#### 第3章 調査の成果（平成30年度）

第1節 東這田東カチ散布地第1地点	18
第2節 三木城新城跡	20

#### 第4章 調査の成果（令和元年度）

第1節 東這田前山散布地	22
第2節 恵比須駅東遺跡	25

#### 第5章 調査の成果（令和2年度）

第1節 宿原城跡	27
第2節 平井1号墳	29
第3節 跡部村山ノ下付城跡・跡部東谷遺跡	35
第4節 平井村中村間ノ山付城跡	45

### 図版

### 抄録



# 第1章 発掘調査の動向—平成29～令和2年度—

## 第1節 三木市の位置と環境

### 1 地理的環境

三木市のある兵庫県は、瀬戸内海から日本海に渡って広がる県域である。三木市は、兵庫県の南東部に位置する内陸の都市である。平成17年（2005）10月に北東に隣接する美嚢郡吉川町と合併し新たな三木市となっている。東及び南は神戸市、南西は加古郡稲美町、西は加古川市、北西は小野市、北は加東市、北東は三田市と境界を接している。近世以前の旧分国では、播磨国美嚢郡に属する。

三木市の地形は、市域の大部分を丘陵・台地・平野で占め、わずかな山地とからなる。市の東部は帝釈山地さらには六甲山地へと続き市の西部は丘陵や台地が広がる。これらの山地や丘陵に水源を発した美嚢川や支流である志染川・小川川・淡河川などの美嚢川水系は西流し、別所町正法寺付近で加古川に合流する。加古川は瀬戸内海に注ぎ、古くから河川交通が盛んであった。市域はこれらの河川によって形成された沖積平野及び河岸段丘からなる。

丘陵と台地は、市北東部の美嚢川より北の小野丘陵、美嚢川と小川川に挟まれた吉川丘陵、小川川と志染川に挟まれた細川丘陵、志染川の南に展開する志染丘陵、志染川上流の帝釈山地、市西部の美嚢川南岸より明石市・加古郡稲美町へ広がる東播台地の6つの地域に分けられる。これらの丘陵や台地、河川の浸食作用によって形成された開析谷を縫うように有馬道・明石道・兵庫道・姫路道などの陸上交通が発達してきた。

### 2 歴史的環境

三木市において、最も古く人間の行動が確認できるのは旧石器時代である。美嚢川を望む段丘上に位置する和田白長<sup>おだ はくちょう</sup>大神神社散布地、与呂木宮ノ元遺跡で後期旧石器時代のナイフ形石器が出土している。また、正法寺山頂からナイフ形石器が表採されたほか、戸田遺跡の土坑から角錐状石器が出土している。

続く縄文時代は、与呂木で草創期以前の尖頭器が表採されたほか、金会遺跡から草創期の有茎尖頭器が出土している。また、志染町の窟屋1号墳の墳丘及びその崩落土の中から、中期から晩期にかけての縄文土器が出土しているほか、戸田遺跡の土坑から後期初頭の縄文土器が出土している。

弥生時代は、市西部の美嚢川北側丘陵で年ノ神遺跡や和田神社遺跡などの中期から後期にかけての集落が確認されている。また、美嚢川と志染川が合流する東側段丘や志染川南側段丘でも、与呂木宮ノ元遺跡や与呂木大畠遺跡、

宿原岡ノ下遺跡、小戸田遺跡などの中期から後期の集落が確認されている。

古墳時代になると、台地や斜面地、段丘の至るところに中期から後期にかけて数多くの古墳が築かれるようになる。美嚢川と加古川の合流地点、市西部の美嚢川を望む南側及び北側丘陵、志染川の南側丘陵に集中している。前期には市内最大の全長91mの前方後円墳である下石野5号墳（愛宕山古墳・三木市指定文化財）が築かれている。

『日本書紀』や『播磨国風土記』などによると、5世紀後半、第20代の安康天皇が殺害されたあと、皇位をめぐる争いから逃れた市辺押磐皇子の二人の王子オケとヲケが日下部連意美に連れられ、志染の石室に身を隠し、縮見屯倉首忍海部造細目に仕えたとされている。のちに弟のヲケが第23代顕宗天皇に、兄のオケが第24代仁賢天皇に即位したとされている。これらの記述から、ヤマト政権の直轄地である屯倉が志染にあったこと、屯倉を管理する地方豪族が存在していたことがわかる。なお、中期から後期にかけては、年ノ神6号墳からは三角板革綴短甲、窟屋1号墳では金銅装單鳳環頭太刀柄頭が出土しており、ヤマト政権との繋がりが注目されている。

『播磨国風土記』によると、奈良時代の美嚢郡には、高野里・枚野里・志染里・吉川里の四里があったことが確認できる。集落遺跡の志染中谷遺跡では、墨書き器が出土していることから、美嚢郡衙の候補地の一つと考えられる。この時期には、三木の特色となる窯業生産が始まる。最盛期は12世紀の平安時代後期～鎌倉時代初期で、尊勝寺や鳥羽離宮などの院に関係する寺院や邸宅に瓦を供給していたことが確認されている。窯跡は、跡部・久留美・平井・与呂木・宿原・二位谷に分布している。

南北朝時代には、古代からの名刹の伝承をもつ高男寺廃寺跡より、「貞和二季」(1346) 銘の入った瓦が出土している。また、三木合戦時の付城跡と考えられる和田村四合谷村ノ口付城跡からは、「嘉暦二年」(1327) 銘の入った硯をはじめ、南北朝期の遺物が数多く出土していることから、暦応2年(1339)に南朝方の丹生山を北朝方の赤松氏が攻めるために集結した「志染軍陣」の可能性が指摘されている。

室町時代になると、赤松氏が播磨守護を務めている。赤松満祐によって6代將軍足利義教が殺害された嘉吉の乱により、山名氏にその座を奪われた。応仁の乱の後、赤松氏が播磨守護に復帰する過程において、三木別所氏の初代則治が台頭していく。則治は、東播磨八郡の守護代に任じられ、15世紀末頃に三木城を築城したと考えられる。三木城は、本丸・二の丸・新城・鷹尾山城・宮ノ上要害などからなる。本丸では二分する堀を確認し、二の丸からは備前焼大甕群や瓦葺礎石建物跡、堀などの遺構を確認している。

中国地方への進出を図る織田信長は、毛利氏を攻める足掛かりとして天正5年(1577)に播磨攻めを家臣の羽柴秀吉に命じた。当初、別所氏の当主長

治は織田方に味方していたが、同6年3月に織田方を離反し、毛利方に与した。織田方は三木城を攻略するために三木城の周囲に付城群<sup>つけじろ</sup>を築いて包囲し、兵糧攻めを行った。付城は毛利氏からの兵糧搬入を阻止するために、状況に応じて増やされ、約40の付城と南側の付城を繋ぐ土塁が築かれた。やがて、三木城内の兵糧が尽き、同8年1月17日、城主長治が自刃して開城した。

その後、織田・豊臣の支配下となり、秀吉の家臣が相次いで城主となった。関ヶ原合戦後は、姫路城主池田氏の家臣が城主となって三木城は存続したが、江戸幕府による元和元年(1615)一国一城令の政策に伴って、廃城となった。

以後、城下の三木町は在郷町と性格を変え、江戸時代中期以降多くの大工職人が三木町に居住し、大工道具の需要が増えたことも一因となって金物職人も増加していき、金物の町として繁栄し現在に至っている。

#### 〈参考文献〉

- 兵庫県教育委員会 1999 『久留美・跡部窯跡群』 兵庫県文化財調査報告第186冊  
2002 『平ノ神古墳群』 兵庫県文化財調査報告第234冊  
2002 『和田神社遺跡』 兵庫県文化財調査報告第238冊  
2009 『窟屋1号墳』 兵庫県文化財調査報告第353冊  
2012 『吉田住吉山遺跡』 兵庫県文化財調査報告第409冊
- 三市教育委員会 2000 『三木市埋蔵文化財発掘調査概要報告書』II 三木市文化研究資料第14集  
2001 『三木市遺跡分布地図』三木市文化研究資料第17集  
2012 『三木城跡及び付城跡群総合調査報告書 総括編』三木市文化研究資料第25集  
2013 『三木市 平成20・22・23年度国庫補助事業による発掘調査報告書』三木市文化研究資料第26集  
2015 『三木市 平成24~26年度国庫補助事業による発掘調査報告書』三木市文化研究資料第29集
- 三木城跡及び付城跡群学術調査検討委員会 2010 『三木城跡及び付城跡群総合調査報告書』三木市文化研究資料第23集 三市教育委員会

## 第2節 平成29年度～令和2年度の発掘調査

### 1 調査一覧

当該年度における発掘調査件数は23件で、その内訳は工事立会9件、試掘調査1件、確認調査12件、本発掘調査1件である。詳細は、表1のとおりである。

表1 埋蔵文化財発掘調査実施状況一覧（平成29年度～令和2年度）

(平成29年度)

地図番	遺跡名	種別	所在地	調査の原因	調査期間	調査面積	主な遺構	主な遺物	調査後の措置	報告書	調査担当者
1	加佐町田道跡(1次)	確認	加佐町田山217番地	住民住宅の建設工事	H29.5.11	12m <sup>2</sup>	なし	なし	情報工事	本部	企松 淩
2	三木城跡(4次)	確認	本町1丁目997-994番地	個人住宅の建設工事	H29.6.28	4m <sup>2</sup>	なし	なし	情報工事	本部	企松 淩
3	平成東山遺跡跡(2地点)(1次)	確認	平成字東山100番地～116番地	道路改良工事	H29.7.19	45m <sup>2</sup>	なし	なし	情報工事	本部	企松 淩
4	加佐裏町道跡(1次)	確認	加佐7丁目9-6, 7-9番地	道路改良工事	H29.11.12	6m <sup>2</sup>	なし	なし	情報工事	本部	企松 淩
5	三木城新堀跡(3次)	確認	上の丸町1099番地	個人住宅の建設工事	H29.3.28	6.4m <sup>2</sup>	溝	なし	情報工事	本部	企松 淩

(平成30年度)

地図番	遺跡名	種別	所在地	調査の原因	調査期間	調査面積	主な遺構	主な遺物	調査後の措置	報告書	調査担当者
2	三木城本丸跡	立会	本町1丁目628-3	防災防火工事	H30.7.28	なし	なし	なし	工事実施	企松 淩	
6	宿院城跡	立会	宿院10番地	宿院工事	H30.7.31	なし	なし	なし	工事実施	企松 淩	
6	東道田東カ體育場跡(1地点)(1次)	確認	東道田東カ體育場121番地	個人住宅の建て替え工事	H30.8.27	7.8m <sup>2</sup>	なし	なし	情報工事	本部	企松 淩
5	前田上郷1遺跡跡(1地点)	立会	大坂1丁目8-4	ガス管敷設工事	H30.11.1	なし	なし	なし	工事実施	企松 淩	
5	三木城新堀跡(1次)	確認	上の丸町1099番地	個人住宅の新築工事	H31.2.12	4m <sup>2</sup>	なし	なし	情報工事	本部	企松 淩

(令和元年度)

地図番	遺跡名	種別	所在地	調査の原因	調査期間	調査面積	主な遺構	主な遺物	調査後の措置	報告書	調査担当者
7	東道田御山遺跡(2次)	確認	東道田御山120番地	活路鉄道の建て替え工事	H31.6.14	9.2m <sup>2</sup>	土塁	瓦, 瓦質土器, 陶器	情報工事	本部	企松 淩
8	邑北氣駅東遺跡(1次)	確認	前田字今之瀬281番地	個人住宅の新築工事	H31.10.24	4m <sup>2</sup>	なし	瓦塊瓦・土師器	情報工事	本部	企松 淩
9	大坂遺跡	立会	大坂2丁目232番地, 234番地, 315番地, 316番地, 319番地, 320番地	防震新築工事	H31.12.5	なし	土師瓦, 瓦塊瓦, 瓦器	なし	工事実施		企松 淩
10	三木城跡	立会	上の丸町984号	石積擁壁の改修工事	H32.2.26・2.26	なし	なし	なし	工事実施		企松 淩

(令和2年度)

地図番	遺跡名	種別	所在地	調査の原因	調査期間	調査面積	主な遺構	主な遺物	調査後の措置	報告書	調査担当者
1	高木陣屋跡	立会	高木町高木坂附近9番地	個人住宅の新築工事	H32.6.23	なし	なし	なし	工事実施		企松 淩
9	宿院城跡(2次)	確認	宿院宇田西108番地	宿院宿舎の建設工事	H32.11.13	6m <sup>2</sup>	なし	なし	情報工事	本部	企松 淩
10	平井1号遺跡(1次)	試掘	平井字さき33番地	活路鉄道の建て替え工事	H32.11.17～H33.1.14	29m <sup>2</sup>	土体瓦	瓦塊瓦, 石製品	現状保存	本部	企松 淩
11	辯天村下村山ノ下村城跡(2次) 辯天城東山城跡(2次)	確認	辯天村下村山ノ下村城跡 辯天城東山城跡	活路鉄道の建て替え工事	H32.12.9～H33.1.11	35m <sup>2</sup>	聖穴貝殻	赤土生瓦, 亂瓦	本発掘調査	本部	企松 淩
12	平井村中村ノ下村城跡(1次)	確認	平井字北山284-11	活路鉄道の建て替え工事	H33.1.13	4m <sup>2</sup>	なし	なし	情報工事	本部	企松 淩
	岐阜開港遺跡	立会	11吉川町岐阜開港字開港144番地	岐阜盆地周辺の設置工事	H33.2.12	なし	なし	なし	工事実施		企松 淩
	久留美宮の西城跡	立会	久留美字西宮166番地	岐阜盆地周辺の設置工事	H33.2.18	なし	なし	なし	工事実施		企松 淩
	御坂黒岩城跡	立会	古坂町御坂字坂前150番地	岐阜盆地周辺の設置工事	H33.2.19	溝, ピット	なし	なし	工事実施		企松 淩
11	猪苗代山ノ下村城跡(2次)	本発掘調査	猪苗代字猪苗代144番地	活路鉄道の建て替え工事	H33.3.2～3.3	12.25m <sup>2</sup>	聖穴貝殻	赤土生瓦	工事実施	本部	企松 淩

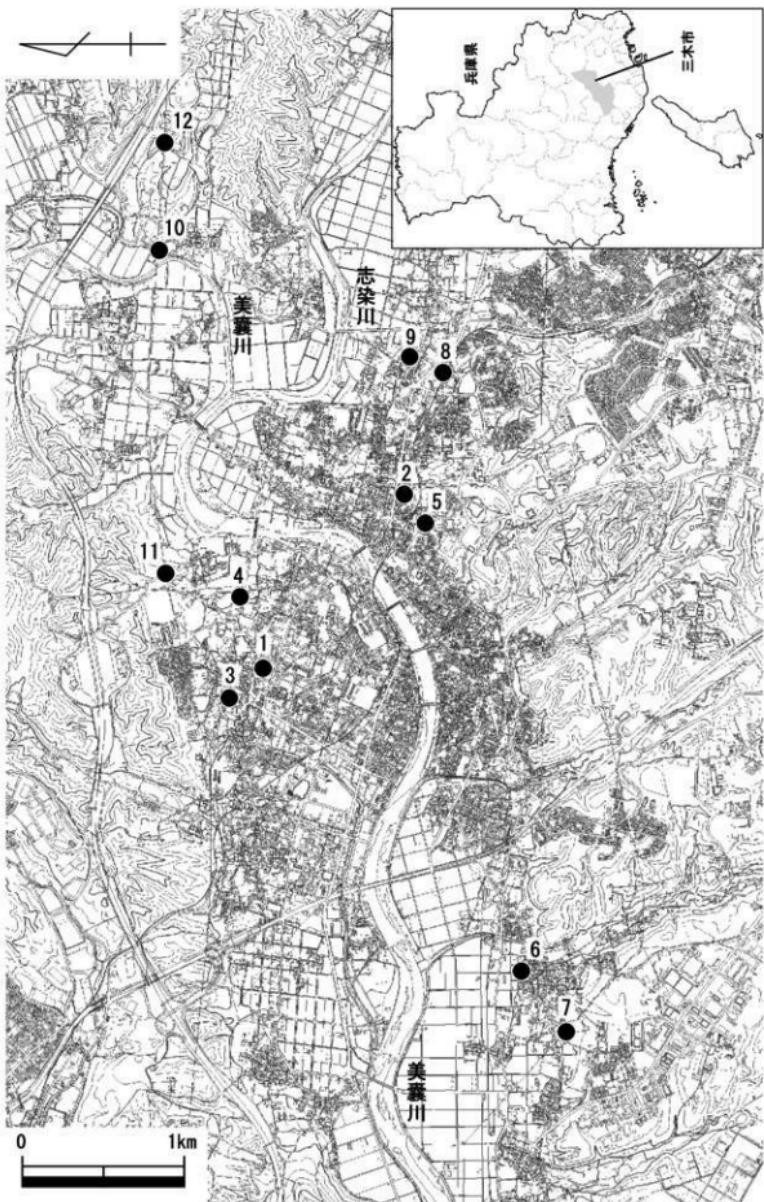


図1 調査位置図

## 第2章 調査の成果（平成29年度）

### 第1節 加佐町田遺跡

#### 1 所在地

三木市加佐字町田 217番1

#### 2 事業名

長屋住宅の建築工事

#### 3 事業者

個人

#### 4 調査の種別

確認調査

#### 5 調査期間

平成29年5月11日

#### 6 調査面積

12 m<sup>2</sup>

#### 7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、3か所に2m×2mの調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の観察を行った。

#### 8 調査の結果（図3～5）

当遺跡は、奈良時代～平安時代の散布地とされている。調査地は、美嚢川右岸の田地に位置し、すぐ北側には東西方向の丘陵が広がっている。

G1・G2は、床土直下において、ほ場整備前の現代用水路跡を検出した。地山面は、工事掘削深度内において確認できなかった。

G3は、地表下60cmにおいて、褐色粘質土の地山面を確認したが、遺構は検出されなかった。

いずれのトレーニングにおいても、当時の遺構・遺物は確認できなかった。

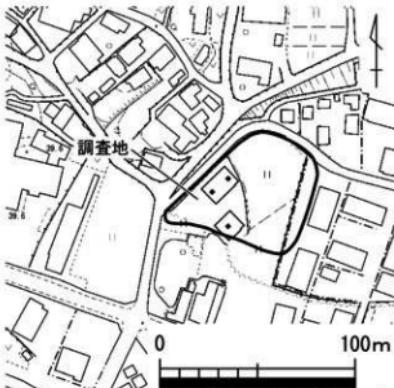


図2 位置図

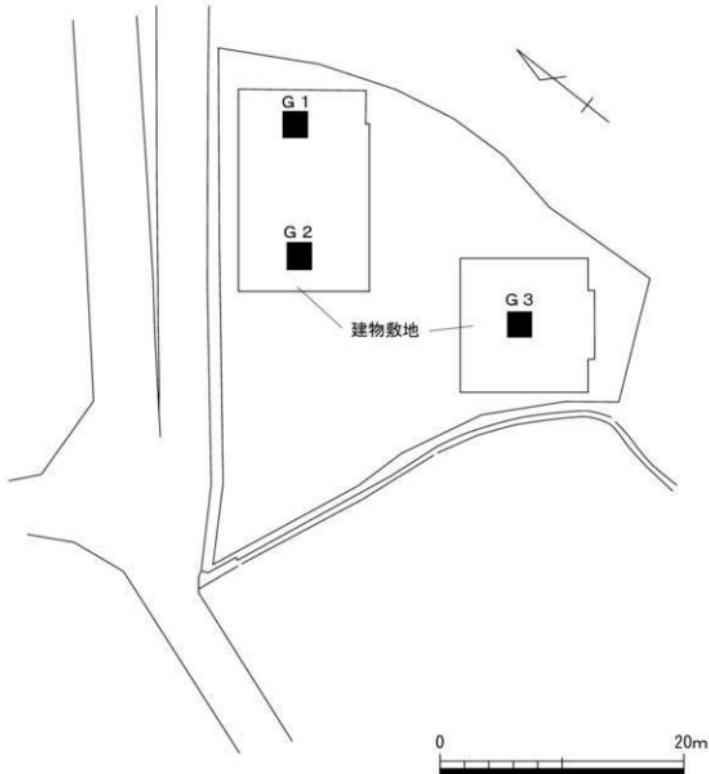


図3 グリッド配置図

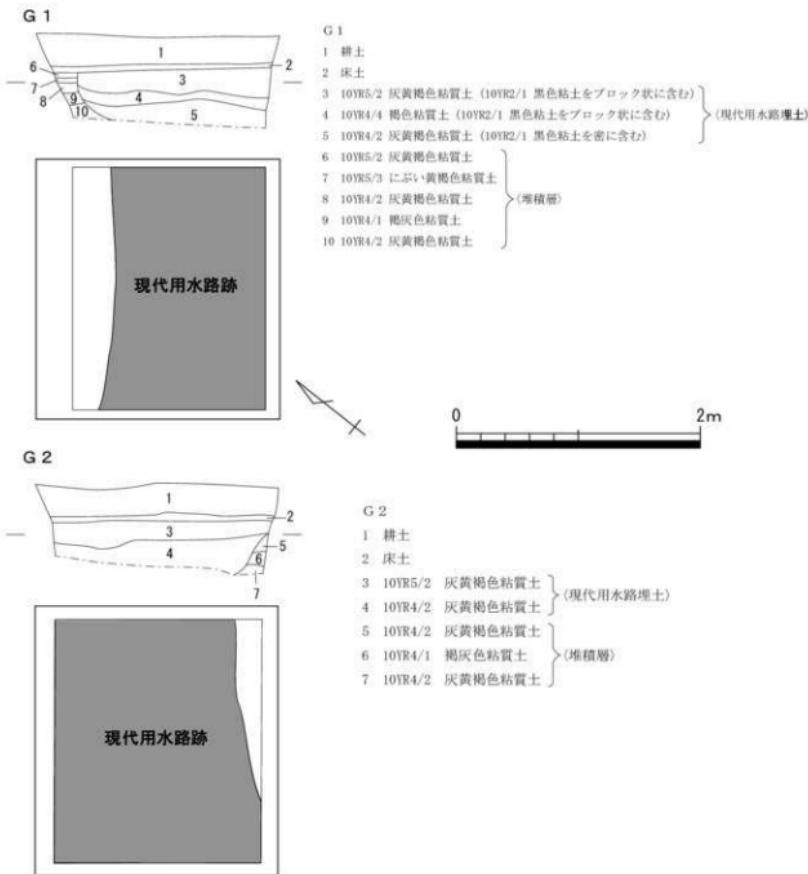


図4 G 1・2 平面・断面図



図5 G 3 北東壁土層柱状図

## 第2節 三木城跡

### 1 所在地

三木市本町1丁目997、994の一部、1003-1の一部

### 2 事業名

個人住宅の建築工事

### 3 事業者

個人

### 4 調査の種別

確認調査

### 5 調査期間

平成29年6月28日

### 6 調査面積

4 m<sup>2</sup>

### 7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、1か所に2m×2mの調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の観察を行った。

### 8 調査の結果（図7・8）

当遺跡は、戦国時代～江戸時代初頭に存続した城跡である。調査地は、三木城を構成する曲輪の一つである「今宿」（金松2020）に位置する。

地表下30cmにおいて、明褐色粘質土の地山面を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。以前にあった住宅の建築の際に、地山面が削られた可能性が高い。

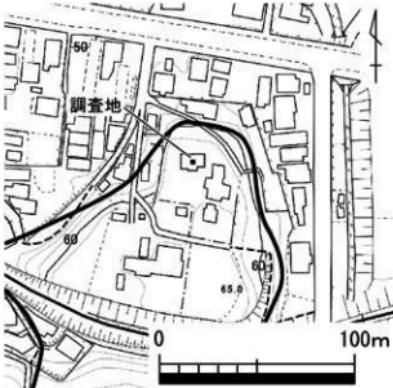


図6 位置図

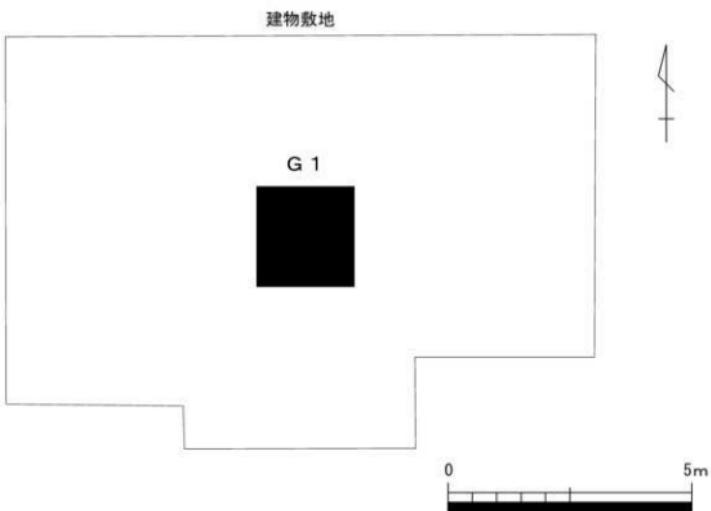
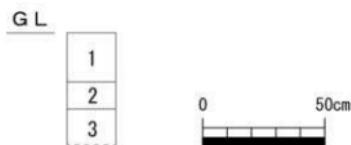


図7 グリッド配置図



- 1 表土
- 2 客土
- 3 7.5YR5/8 明褐色粘質土 (10YR5/8 黄褐色粘質土を含む、2~10cm程の礫を密に含む) <地山>

図8 西壁土層柱状図

ひらたひがしやまばたいせきだい ちてん  
第3節 平田東山畠遺跡第2地点

1 所在地

三木市平田字東山畠 397、413、  
414、415、416

2 事業名

道路改良工事

3 事業者

三木市

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成29年7月19日

6 調査面積

45 m<sup>2</sup>

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、5か所に3m×3mの調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の観察を行った。

8 調査の結果（図10・11）

当遺跡は、時代不明の散布地とされている。調査地は、美嚢川右岸に広がる丘陵南端裾部の田地に位置する。

G1は地表下80cm、G2～5は耕土・床土直下で黄褐色粘質土の地山面を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。南端部分は盛土、それ以外は段丘を切土して、現在の水田が形成されていたことが判明した。

当遺跡は、須恵器が散布しているとされるが、北側に多数分布する奈良～平安時代の窯跡の遺物が混じり込んだものである可能性が高い。

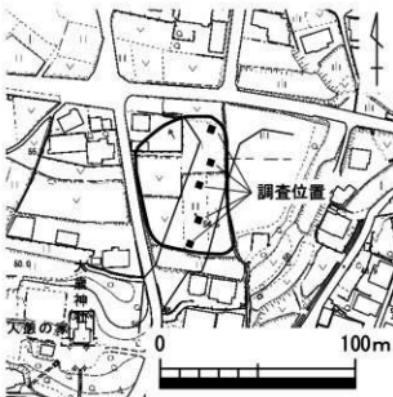


図9 位置図

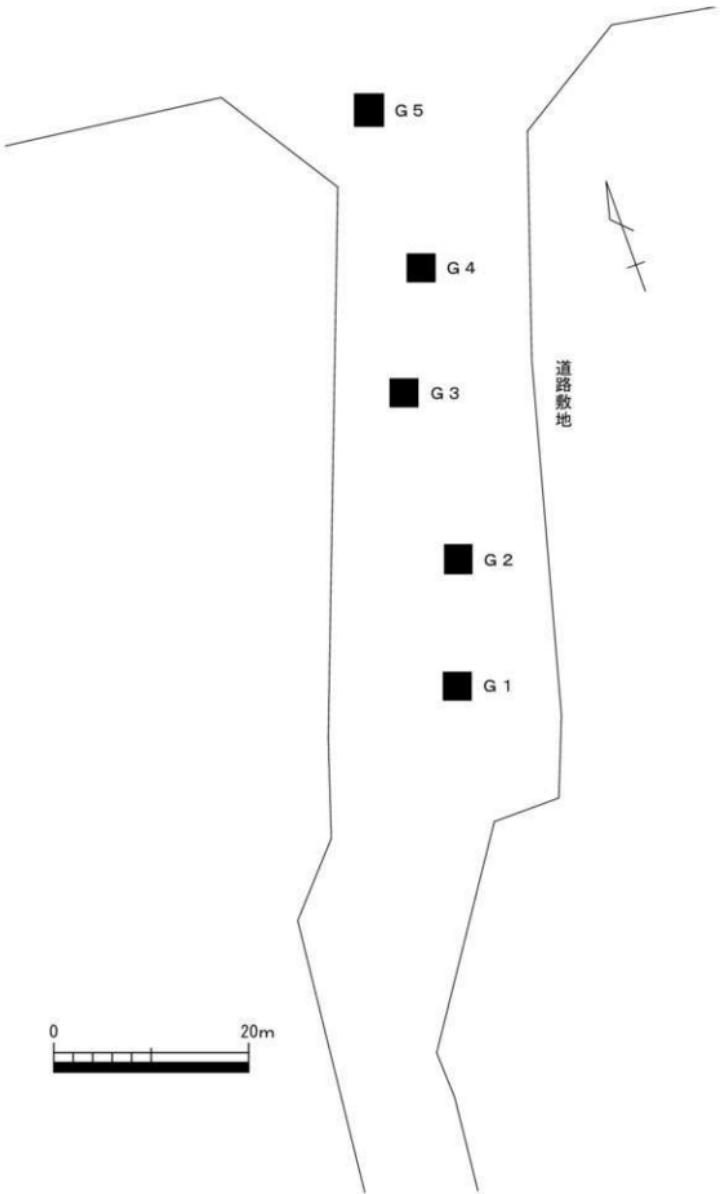


図 10 グリッド配置図

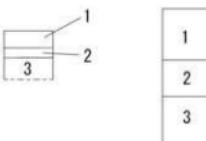
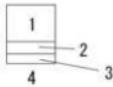
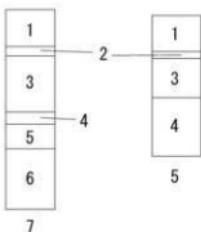
G 1

G 2

G 3

G 4

G 5



- G 1 1 耕土  
2 床土  
3 2.5Y5/6 黄褐色粘質土 (やや軟質、5 ~ 10 cm程の礫を含む)  
4 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土 (やや軟質)  
5 2.5Y5/4 黄褐色粘質土 (5 ~ 15 cm程の礫を含む)  
6 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土 (やや軟質)  
7 2.5Y5/6 黄褐色粘質土 (軟質、5 ~ 20 cm程の礫を密に含む) 〈地山〉
- G 2 1 耕土  
2 床土  
3 10YR5/6 黄褐色粘質土 (3 cm程の礫をまばらに含む)  
4 10YR6/6 明黄褐色粘質土 (やや軟質、2 ~ 10 cm程の礫を密に含む)  
5 10YR7/6 明黄褐色粘質土 (2 ~ 15 cm程の礫を密に含む) 〈地山〉
- G 3 1 耕土  
2 床土  
3 10YR5/6 黄褐色粘質土  
4 10YR7/6 明黄褐色粘質土 (5 ~ 10 cm程の礫を密に含む) 〈地山〉
- G 4 1 耕土  
2 床土  
3 10YR5/6 黄褐色粘質土 (2 ~ 5 cm程の礫をまばらに含む) 〈地山〉
- G 5 1 耕土  
2 10YR5/6 黄褐色粘質土  
3 10YR6/2 灰黄褐色粘質土 〈地山〉

図 11 北壁土層柱状図

## 第4節 加佐廣垣遺跡

### 1 所在地

三木市加佐 719-4、719-6

### 2 事業名

道路改良工事

### 3 事業者

三木市

### 4 調査の種別

確認調査

### 5 調査期間

平成 29 年 11 月 13 日

### 6 調査面積

6 m<sup>2</sup>

### 7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、1か所に 2 m × 3 m の調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の観察を行った。

### 8 調査の概要（図 13）

当遺跡は、古墳時代～鎌倉時代の散布地とされている。調査地は、美嚢川右岸に広がる丘陵南端部に位置する。

G 1 は耕土上面に客土が造成されており、地表下 120 cm において、にぶい黄褐色粘質土の地山面を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。

耕土から地山面までは数 cm の堆積土しかないと想定され、段丘を切土した上で周辺一帯が水田化されたものと考えられる。

当遺跡は、須恵器が散布しているとされるが、北側に多数分布する奈良～平安時代の窯跡の遺物が混入したものである可能性が高い。

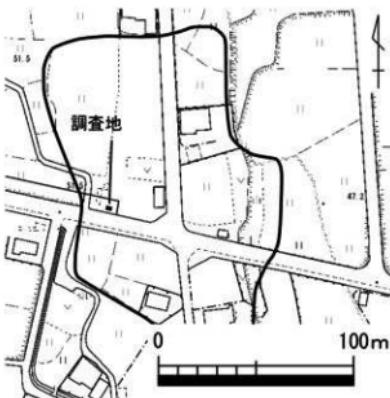
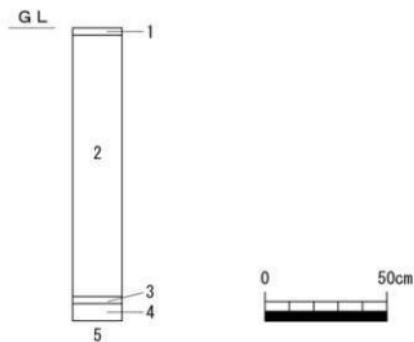


図 12 位置図



- 1 砂石  
 2 客土  
 3 耕土  
 4 10YR5/6 黄褐色粘質土  
 5 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土 (固く縮まる、Mnを密に含む) <地山>

図 13 北壁土層柱状図

## 第5節 三木城 新城跡

### 1 所在地

三木市上の丸町 899 番 61

### 2 事業名

個人住宅の建築工事

### 3 事業者

個人

### 4 調査の種別

確認調査

### 5 調査期間

平成 30 年 3 月 28 日

### 6 調査面積

6.4 m<sup>2</sup>

### 7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、1 か所に 2 m × 3.2 m の調査トレンチを設定し、遺構・遺物の有無、土層の観察を行った。

### 8 調査の結果（図 15）

当遺跡は、戦国時代～江戸時代初頭に存続した三木城跡を構成する曲輪群の一つである。調査地は、新城を構成する北東側の曲輪の東端を区切る堀肩付近に位置する。

トレンチ西端では、地表下 45 cm において、黄褐色粘質土の地山面を確認した。地山は東側に向かうにつれて低くなり、東端において幅約 50 cm、深さ約 25 cm を測る断面 V 字状の溝を検出した。遺構の時期は、遺物が出土していないため、不明である。聞き取りによると、当該箇所は昭和 35 年（1960）頃の宅地造成の際、ブルドーザーで整地されていることから、西側の地山面については、遺構があったとしても、削平を受けて消滅した可能性が高い。

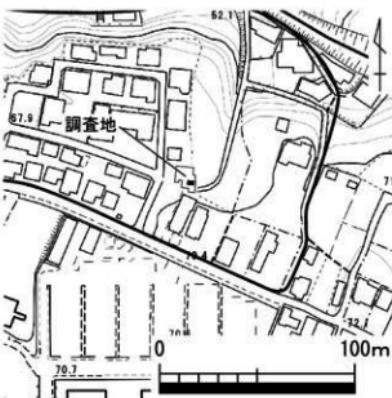
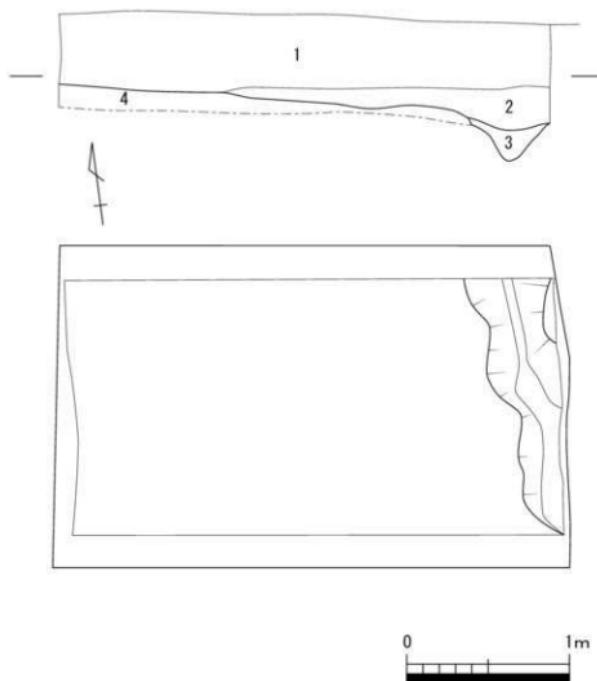


図 14 位置図



- 1 表土（造成土）  
 2 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土 (2~7cm程の礫を密に含む) 〈客土〉  
 3 10YR5/6 黄褐色粘質土 (1~2cm程の礫をまばらに含む) 〈溝〉  
 4 10YR5/8 黄褐色粘質土 (2~5cm程の礫を含む) 〈地山〉

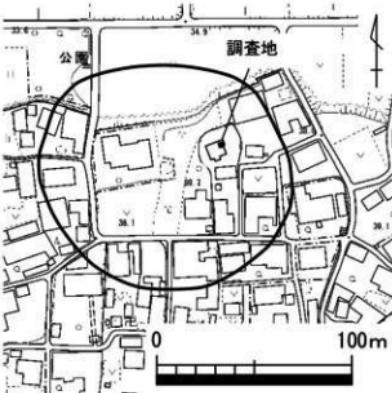
図 15 T 1 平面・断面図

### 第3章 調査の成果（平成30年度）

#### 第1節 東這田東カチ散布地第1地点

##### 1 所在地

三木市東這田字東カチ 131 番地



##### 2 事業名

個人住宅の建て替え工事

##### 3 事業者

個人

##### 4 調査の種別

確認調査

##### 5 調査期間

平成30年8月27日

図16 位置図

##### 6 調査面積

7.8 m<sup>2</sup>

##### 7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、1か所に 2.8m×2.8m の調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の観察を行った。

##### 8 調査の結果（図17・18）

当該地は、平安時代の散布地とされている。調査地は、美嚢川左岸の河岸段丘上に位置する。

表土直下において、黄褐色粘質土の地山面を確認した。既存住宅の基礎工事に伴うとみられる搅乱が検出されたが、遺構・遺物は認められなかった。

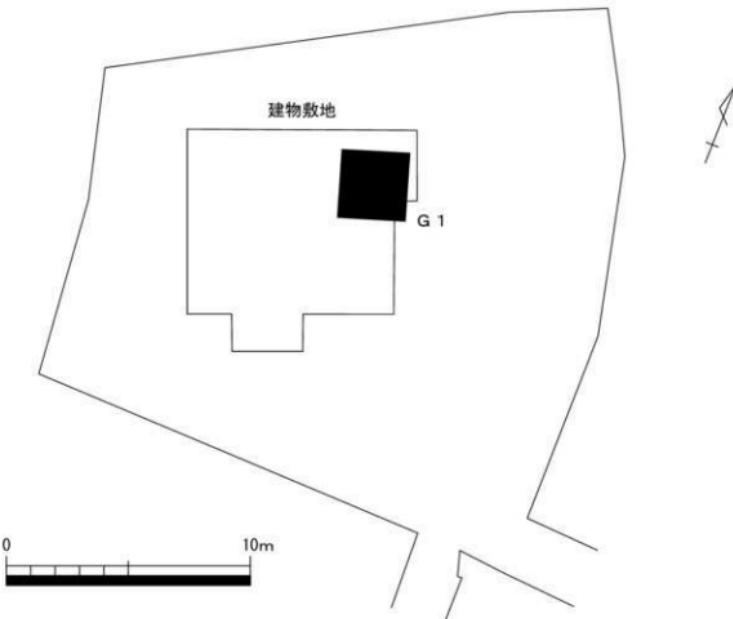
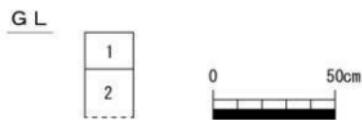


図 17 グリッド配置図



- 1 表土
- 2 10YR5/8 黄褐色粘質土 (地山)

図 18 西壁土層柱状図

み き じょう しんじょう みと  
第2節 三木城 新城跡

1 所在地

三木市上の丸町 899 番 70

2 事業名

個人住宅の新築工事

3 事業者

個人

4 調査の種別

確認調査

5 調査期間

平成 31 年 3 月 12 日

6 調査面積

4 m<sup>2</sup>

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、1か所に 2 m × 2 m の調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の観察を行った。

8 調査の結果（図 20・21）

当遺跡は、戦国時代～江戸時代初頭に存続した三木城跡を構成する曲輪群の一つである。調査地は、新城を構成する北東側の曲輪の中央やや西側に位置する。

現況は駐車場となっており、アスファルトの砕石直下において、地山面を確認した。現代の搅乱を受けていたことが判明した。

聞き取りによると、当該箇所周辺は昭和 35 年（1960）頃の宅地造成の際、ブルドーザーで整地されていることから、遺構があったとしても、削平を受けて消滅した可能性が高い。

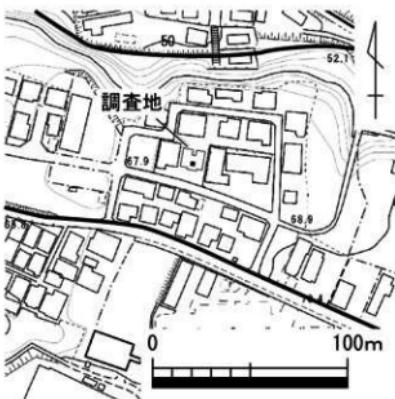


図 19 位置図

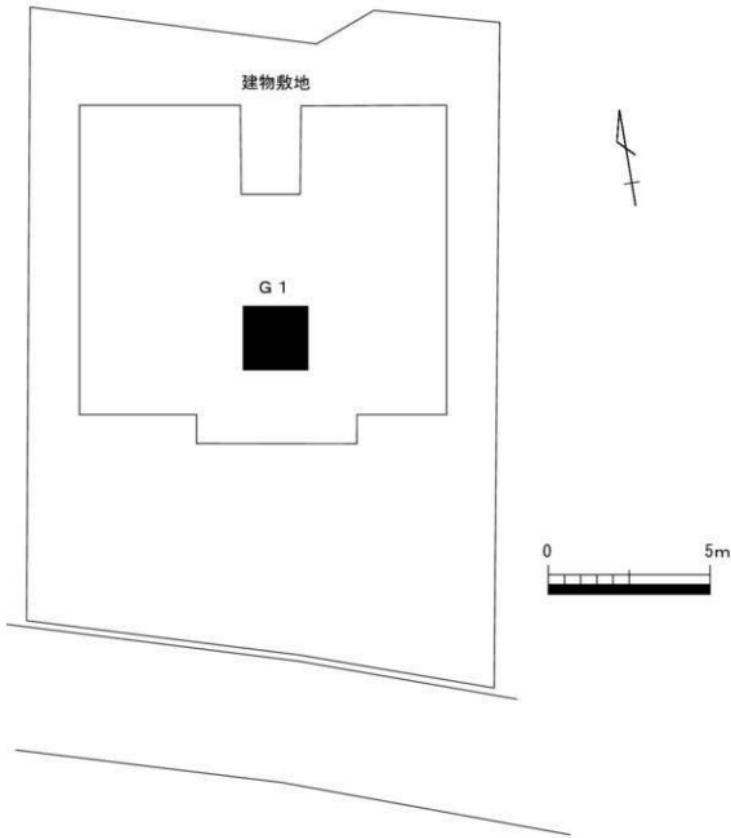
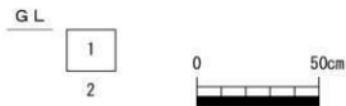


図20 グリッド配置図



1 造成土  
2 10YR5/8 黄褐色粘質土（地山）

図21 南壁土層柱状図

## 第4章 調査の成果（令和元年度）

### 第1節 東這田前山散布地

#### 1 所在地

三木市別所町西這田字口山 567

-31他

#### 2 事業名

送電鉄塔の建て替え工事

#### 3 事業者

関西電力株式会社姫路電力本部

#### 4 調査の種別

確認調査

#### 5 調査期間

令和元年 6 月 14 日

#### 6 調査面積

9.3 m<sup>2</sup>

#### 7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、2か所に調査トレンチを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

#### 8 調査の結果（図 23～25）

##### (1) 遺構

当遺跡は、平安時代の散布地とされている。調査地は、美嚢川左岸の台地端部の山林に位置する。

T 1 では、表土直下において黄褐色砂質土の地山面を確認し、土坑を検出した。規模は、98 cm × 110 cm、深さ 40 cm を測り、中央やや南寄りが一段深くなっている。

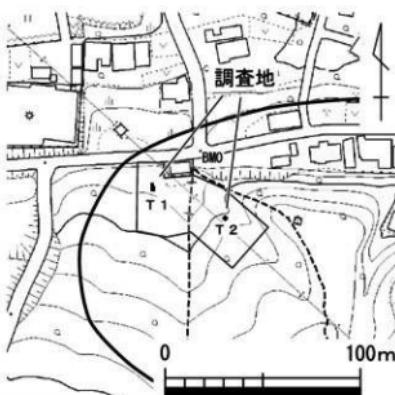


図 22 位置図

土坑からは、18世紀以降とみられる軒桟瓦・瓦質羽釜・磁器が出土した。T 2 では、地表下1mで地山面を検出したが、遺構は確認できなかった。

## (2) 出土遺物

コンテナケース1箱分の遺物が出土した。T 1 土坑からの出土である。

瓦質羽釜（1）は、口縁部から体部下半にかけて弓なりに湾曲し、中央やや下側において、ほぼ水平方向に鐸が伸びる。

軒桟瓦（2）は、桟頭部が欠損している。瓦当部は、中央に宝珠とその下に小さい丸とともにその両側にやや湾曲を持つ水平方向の文様を配す。そして、左右対称にy字状・三日月状・y字状の文様が展開している。近世VII期（1724年～1765年）以降のものと考えられる（山崎2008）。

磁器（3）は、国産の水指とみられる。体部は、低いくの字状を呈し、口縁部内面には蓋受けがある。外面には、口縁部右側に赤褐色の円を描き、体部に縦方向の暗褐色の線が6条確認できる。左端の線はやや太く、周囲に緑色がみられることから絵柄の可能性がある。

これらの遺物は、概ね18世紀以降のものと考えられる。

表2 出土遺物観察表

番号	遺構名	遺物名	器種(部位)	色調	胎土	焼成	法線(cm)( )は裏面積-裏面積		形態的特徴・調整など
							口径	器高	
1	T1 土坑	瓦質土器 (口縁～体部下半)	羽釜	外面: SY4/1 黄灰色 内面: SY3/1 黒褐色	1mm以下の黒色・白色砂粒 含む	良	(16.6)	(11.8)	外面: ロクロナデ 内面: ロクロナデ
2	T1 土坑	瓦	軒桟瓦	凸面: N4/0 灰色 凹面: N3/0 暗灰色	1mm以下～2mmの黒色・白色砂粒を密に 含む	良	幅 (24.0)	4.4	
3	T1 土坑	磁器	水指 (口縁～底部)	外面: 7.5Y8/1 反白色 内面: 7.5Y9/1 反白色	1mm以下の反 色砂粒をまば らに含む	良	(9.0)	4.1	外面: 施難、施文、ロクロナデ 内面: 施難、露胎(口縁部)

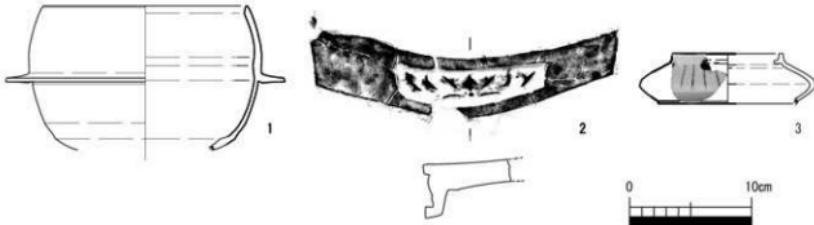
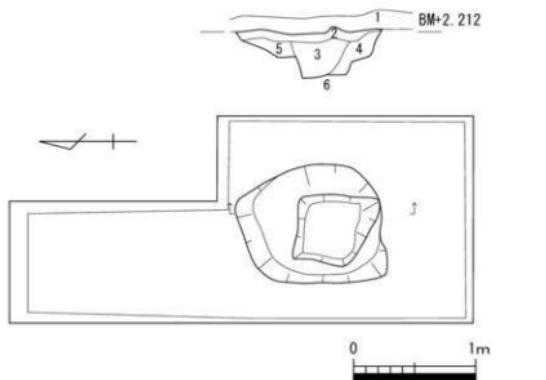


図23 出土遺物 (S=1/4)

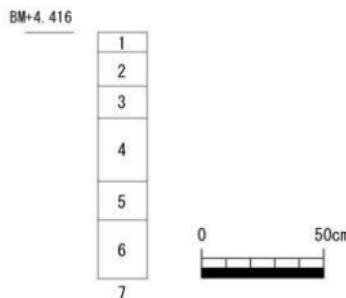
## (3)まとめ

T 1 の土坑の存在から、18世紀以降には調査地周辺の台地端部が主に耕作地として開発されたとみられる。



- 1 表土  
 2 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土  
 3 10YR4/4 棕色砂質土 (地山と炭化物を含む、遺物を密に含む)  
 4 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 (地山と炭化物を含む)  
 5 10YR5/6 黄褐色砂質土  
 6 5YR6/8 黄褐色砂質土 (地山) } (土坑)

図 24 T 1 平面・断面図



- 1 表土  
 2 10YR4/4 棕色砂質土 (やや軟質、2cm程の礫をまばらに含む)  
 3 10YR5/8 黄褐色砂質土 (やや軟質、1~5cm程の礫を密に含む)  
 4 10YR6/8 明黄褐色砂質土 (やや軟質、1~5cm程の礫を含む)  
 5 10YR5/8 黄褐色砂質土 (やや軟質、1~5cm程の礫を密に含む)  
 6 10YR5/8 黄褐色砂質土 (2mm~3cm程の礫をわずかに含む)  
 7 7, 5YR5/8 明褐色砂質土 (2mm~3cm程の礫をわずかに含む) (地山)

図 25 T 2 南西壁土層柱状図

## 第2節 恵比須駅東遺跡

### 1 所在地

三木市宿原字寺之前 28 番 1

### 2 事業名

個人住宅の新築工事

### 3 事業者

個人

### 4 調査の種別

確認調査

### 5 調査期間

令和元年 10 月 24 日

### 6 調査面積

4 m<sup>2</sup>

### 7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、1か所に 2 m × 2 m の調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

### 8 調査の結果（図 27・28）

当遺跡は、奈良時代の散布地とされている。調査地は、志染川左岸の河岸段丘上の宅地に位置する。

G 1 では、床土直下において褐色粘質土の地山面を検出したが、遺構は確認されなかった。地山上面において、平安時代とみられる須恵器・土師器の細片が各 1 点出土した。

地山面は、2 ~ 5 cm 程の礫を含むなど、集落の適地とは考えにくい。遺物については、周辺に宿原窯跡群が所在することから、灰原の遺物が混入した可能性が高い。

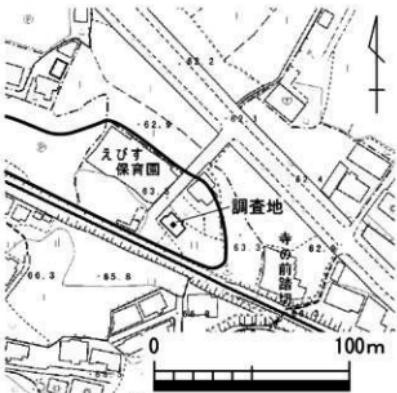


図 26 位置図

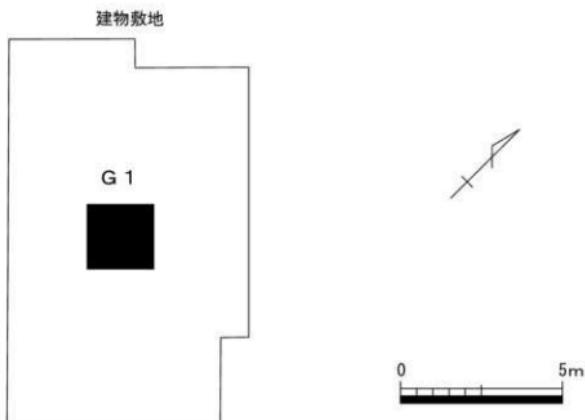
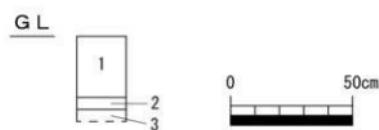


図27 グリッド配置図



- 1 耕土
- 2 10YR5/3 にぶい黄橙色砂質土 (床土か)
- 3 10YR4/4 褐色粘質土  
(10YR5/3 にぶい黄橙色砂質土を密に含む、Mnを密に含む、2~5cm程の礫を含む) (地山)

図28 北壁土層柱状図

## 第5章 調査の成果（令和2年度）

### 第1節 宿原城跡

#### 1 所在地

三木市宿原字門前西 1038 番 2

#### 2 事業名

寺院建物の増築工事

#### 3 事業者

宗教法人常厳寺

#### 4 調査の種別

確認調査

#### 5 調査期間

令和2年11月13日

#### 6 調査面積

6 m<sup>2</sup>

#### 7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、1か所に 2 m × 3 m の調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

#### 8 調査の結果（図 30・31）

当遺跡は、志染川左岸の河岸段丘の北縁部に立地する平城である。東西に延びる有馬道が城域南辺に沿って通っている。別所氏の居城三木城の支城と考えられる。現在、中心部は曹洞宗君峰山常厳寺の境内となっている。

平成 25 年度に確認調査を実施したところ、北辺において、推定幅 15m 以上、南側墓地からの深さ約 4.5m の東西方向の堀が確認されている（三木市教育委員会 2015）。

調査地は、常厳寺境内の北西に位置する。G 1 は、工事掘削深度内は現代

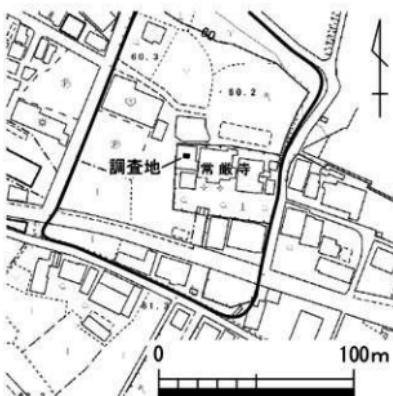


図 29 位置図

盛土に覆われていることが判明した。下層の状況を確認するために断ち割りを設けたところ、地表下約50cmにおいて土師質土器・瓦の細片を含む固く締まる近代頃のベース土を検出した。しかし、当時の遺構面を検出するには至らなかった。

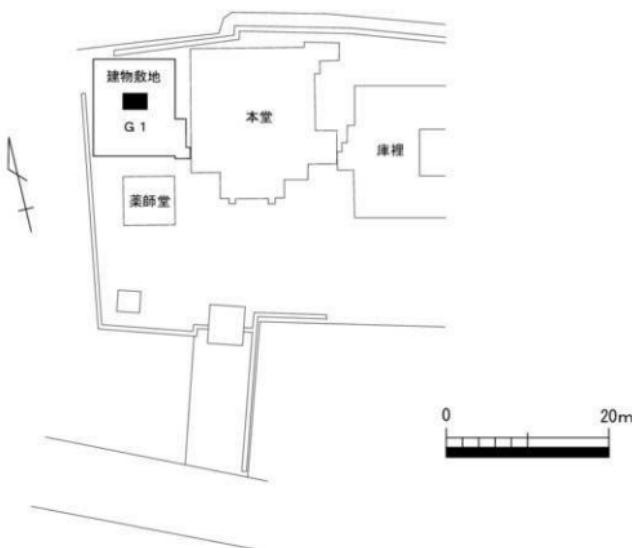


図30 グリッド配置図



図31 西壁土層断面図

## 第2節 平井1号墳

### 1 所在地

三木市平井字芝カチ 353-68、  
353-70

### 2 事業名

送電鉄塔の建て替え工事

### 3 事業者

関西電力送配電株式会社 電力  
システム技術センター

### 4 調査の種別

試掘調査



図32 位置図

### 5 調査期間

令和2年11月17日～令和3年1月14日

### 6 調査面積

29 m<sup>2</sup>

### 7 調査にいたる経過

関西電力送配電株式会社電力システム技術センターでは、老朽化した送電鉄塔の更新事業を順次進める中、令和3年度事業計画により、三木市平井所在の鉄塔の建て替えを実施する運びとなった。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、形状や伝承から古墳である可能性が高かったことから、事業予定地内の埋蔵文化財に係る試掘調査を実施した。

### 8 調査の方法

事業地内において、遺跡の有無を確認するため、3か所に調査トレンチを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

## 9 調査の結果（図 33・34）

### (1) 平井1号墳の概要

平井1号墳は、美嚢川に面する舌状台地先端部に位置する。墳頂部には、石碑が横たわっており、下記の銘文が記されている。

（正面） 南無阿彌陀仏

（背面） 甲辰歳此古墓發見茲為

靈魂慰 吉田氏建之

明治三十九年十二月

この石碑のほか、『兵庫県美嚢郡誌』（美嚢郡教育会、1926年）や地元住民からの聞き取りによると、決壊した池の堤の修理に用いる石材採取のため、明治37年（1904）にこの場所を掘削したところ、朱が塗られた人骨や毛髪が多数出土し、古墳であることが判明した。そこで、明治39年12月にこの靈魂を慰めるために平井地区の吉田太右衛門が中心となって、供養が行われたようである。

### (2) 各トレンチの調査結果

#### T 1

墳頂部の凹状に窪む主体部の北半部にかかるようにトレンチを設定した。

表土を除去したところ、石棺材を利用したとみられる祭祀施設が検出された。表土からは平安時代とみられる須恵器片が出土した。

主体部は、明治時代に石材採取のため数十cm掘り返された後、そのまま埋め戻されたとみられ、埋土から石棺材とみられる多くの凝灰岩片が出土した。南壁際に断ち割りを設けたものの、北半部は一段下げの状況で掘削はとどめている。

#### T 2

新鉄塔の基礎部分にトレンチ設定した。既存鉄塔工事に伴い、斜面地を平坦に掘削した後、溝状にアースを埋設し、土を覆いかぶせたことが確認できた。

#### T 3

墳丘の状況を確認するために墳頂部から裾部にかけてトレンチを設定した。アースが2条設けられていることから、既存鉄塔工事の際に掘削を受けていることが判明した。そのため、明確な裾部を検出するには至らなかった。な

お、墳丘は盛土ではなく、固く締まる明黄褐色粘質土の地山を削り出して形成されていたことが判明した。

### (3) まとめ

今回の調査により、事業地内に古墳が存在することが明らかとなった。時期の特定はできないものの、5～6世紀の古墳であったとみられる。現況地形からは、方墳の可能性が高く、規模は南北約12m×東西約10m、高さ約2.3mと推定される。主体部は箱形石棺とみられる。副葬品や人骨・毛髪の痕跡は確認できなかった。

以上の成果により、諸手続きを経た上で、周知の埋蔵文化財包蔵地に認定された。なお、工事は周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外において実施されたことから、工事による古墳への影響は避けることができた。

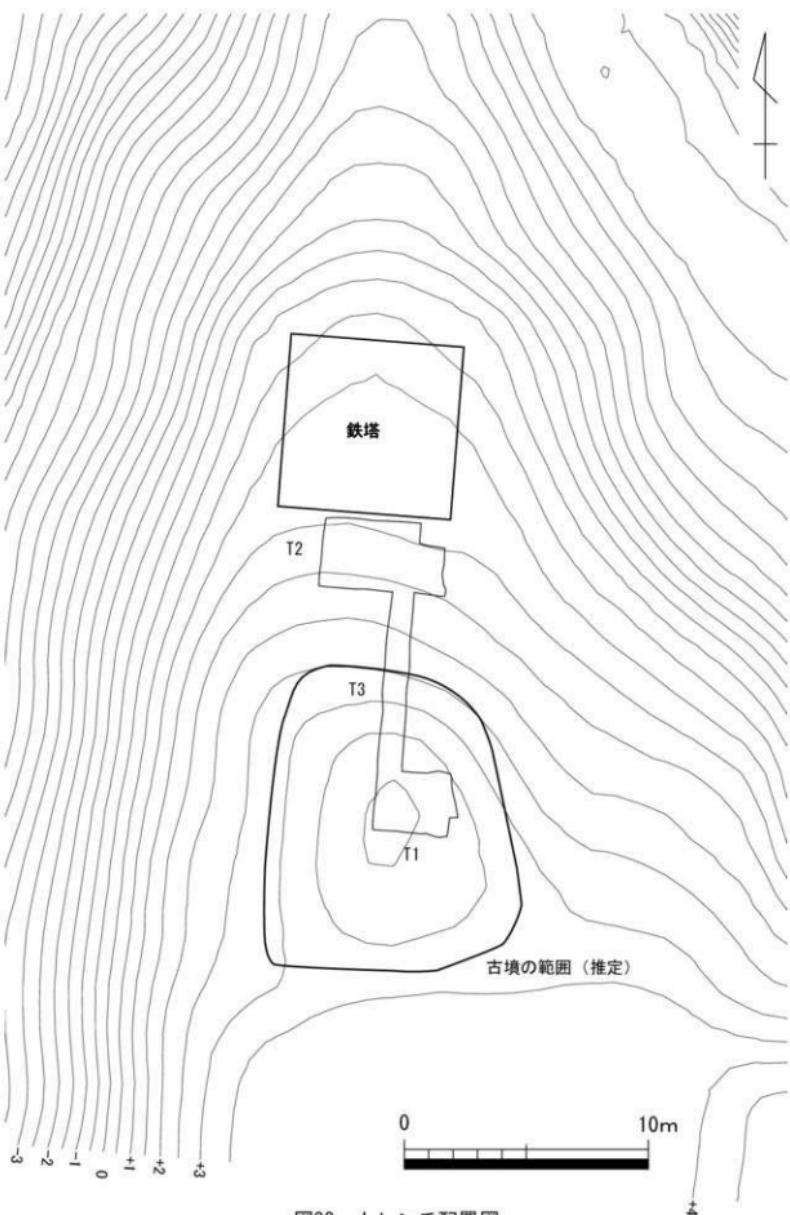


図33 トレンチ配置図

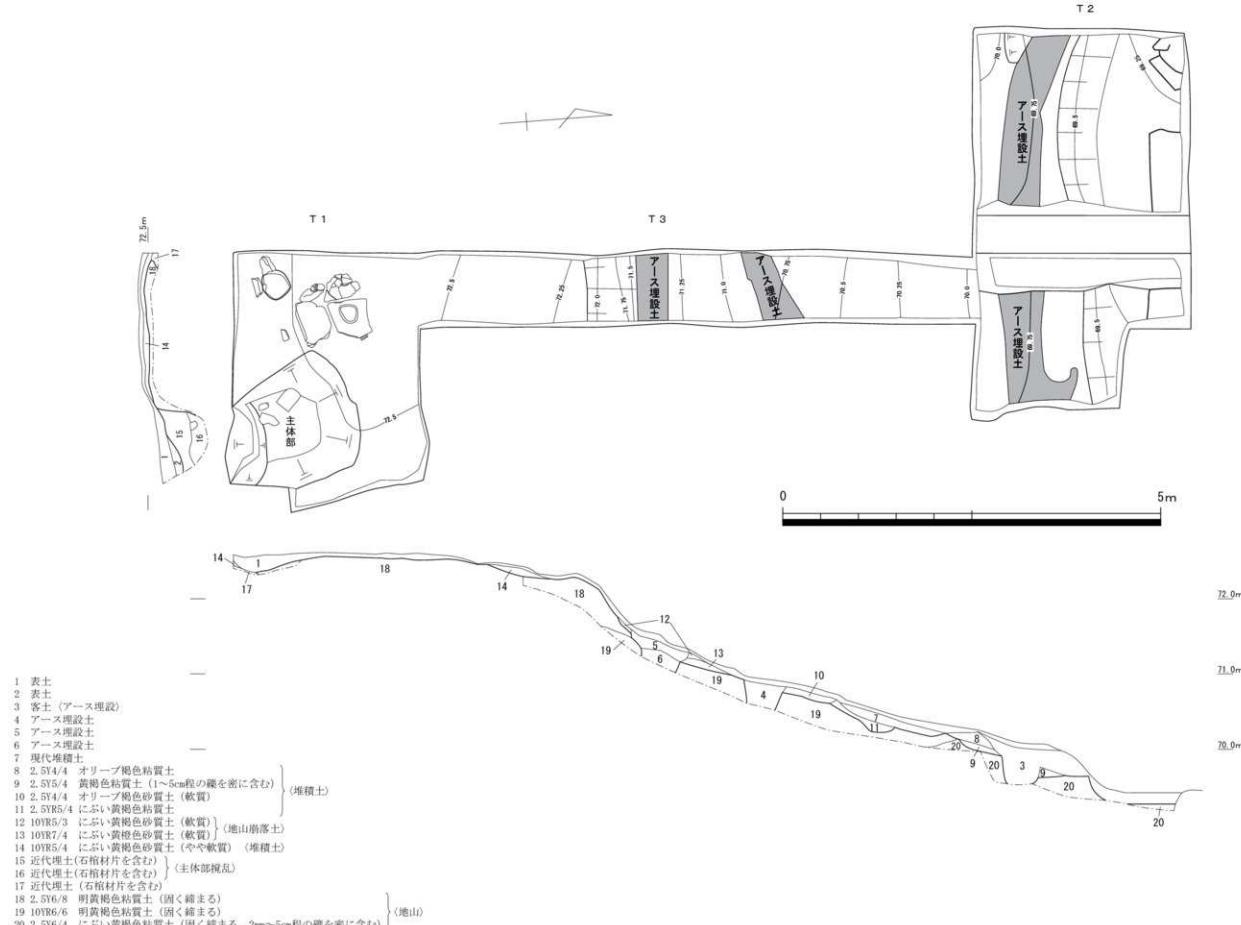


図34 T1~3 平面・断面図



第3節 跡部村山ノ下付城跡・跡部東谷遺跡

1 所在地

三木市跡部字裏山 289-2 ~ 4

他（確認調査）

跡部字裏山 289-14（本発掘調査）

2 事業名

送電鉄塔の建て替え工事

3 事業者

関西電力送配電株式会社 電力

システム技術センター

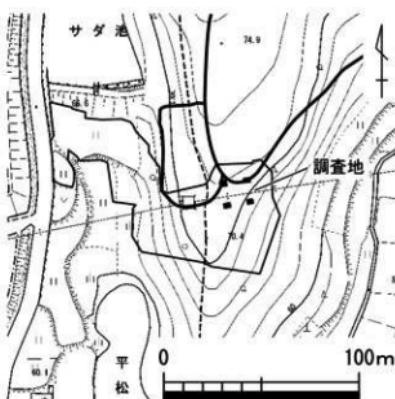


図35 位置図

4 調査の種別

確認調査、本発掘調査

5 調査期間

令和2年12月9日～令和3年1月11日（確認調査）

令和3年3月2日～3月5日（本発掘調査）

6 調査面積

35 m<sup>2</sup>（確認調査）、12.25 m<sup>2</sup>（本発掘調査）

7 調査の方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、鉄塔基礎部分に当たる4か所に調査トレンチを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

8 調査の結果（図36～41）

(1) 遺跡の概要

調査地は、跡部集落裏山の舌状の緩やかな丘上に位置する。跡部村山ノ下付城跡は、天正6年（1578）～8年にかけて繰り広げられた三木合戦に伴う、織田方の付城跡と考えられる。特に天正6年7月末～8月中旬頃に織田信忠が主導し、羽柴秀吉等の軍勢が築いた平井山ノ上付城跡と同時期に築かれた

可能性が指摘されている（金松 2021）。城主は『播磨鑑』によると、織田信澄とされている。

平成 24 年度に確認調査を実施したところ、土塁と横堀で囲まれた単郭方形の主郭と周辺の緩やかな尾根を部分的に区画して利用した駐屯地からなる二重構造の付城である可能性が高いことが判明した（三木市教育委員会 2015）。

跡部東谷遺跡は、弥生時代後期の集落遺跡とされており、平成 9 年度に確認調査を実施したところ、竪穴住居跡が検出されている（三木市教育委員会 1998）。

## （2）確認調査

### ① 各トレンチの調査結果

#### T 1

地表下約 20cm で明褐色粘質土の地山面を検出した。遺構・遺物は確認されなかった。

#### T 2

地表下約 30～40cm で明褐色粘質土の地山面を検出した。当時の遺構・遺物は確認されなかった。なお、表土直下から掘り込まれた、鉄塔に伴うアースを検出した。

#### T 3

表土直下において、東西方向に延びる現代に造成されたとみられる高さ約 20 cm の土塁状遺構を検出した。

地表下約 40cm で明褐色粘質土の地山面を検出した。当時の遺構・遺物は確認されなかった。なお、表土直下から掘り込まれた、缶コーヒーを含む現代土坑を検出した。

#### T 4

表土直下において、東西方向に延びる現代に造成されたとみられる高さ約 20 cm の土塁状遺構を検出した。

地表下約 30～40cm で明褐色粘質土の地山面を検出した。南西隅部において 1 m × 1.5 m 以上の竪穴住居跡とみられる遺構（S 1）を検出した。その上面から弥生時代中期後半の土器が出土した。

### (3) 本発掘調査

確認調査で遺構の存在が判明した、北西側の鉄塔基礎部分全体に調査区(T4)を拡張し、調査を実施した。

S1は北東辺に幅35~55cmのテラスが設けられ、底部の深さは50~70cmを測る。埋土からは、弥生時代中期後半の土器が出土した。当該遺構は、調査区の外側南西に広がっていくとみられる。

### (4) 出土遺物

コンテナケース3箱分の遺物が出土した。弥生時代の遺物は、S1(堅穴住居跡)から出土している。

器種は、ほとんどが小片となっての出土であることから不明な点も多いが、壺、甕、高坏、砥石などが出土している。壺は、口縁部に4条と頸部に数条の凹線文を数条巡らせるもの(5)と1条の断面三角状の突帯を巡らせるもの(10)が出土している。甕は、口縁部から肩部にかけての形状が「く」の字を呈し、口縁端部に凹線を施すもの(1、11)と無文のもの(6)があり、凹線が施された甕の外面には刷毛目が施されている。高坏は、筒部に11条の櫛描沈線文を巡らせるもの(3)のほか、口縁端面を平坦にするもの(7)が認められ、(3、8)には円孔透かしが穿たれている。砥石(4)は、石質が細粒砂岩で、立方体を呈し、欠損している面を除く5面に擦痕が認められる。その内の一面には、幅10mm~15mm、深さ2mm~3mm程の断面「U」字状の溝状部が形成されている。その他、土器の底部(2、12)や欠損した環状把手(13)の一部が出土している。これらの遺物は、概ね弥生時代IV期に属するものと考えられる(大手前大学史学研究所2007)。

### (5) まとめ

今回の調査により、T4の南西隅で弥生時代中期後半の堅穴住居跡とみられる遺構が検出され、その南西側に遺構が広がることが明らかとなった。確認調査において、それ以外の鉄塔基礎部においては遺構・遺物は確認されなかつたことから、この辺りには遺跡は広がっていないと考えられる。おそらく鉄塔基礎部より北側の比較的平坦な尾根上に弥生時代中期後半の集落が広がっていたといえよう。

表3 出土遺物観察表

番号	遺構・層位名	遺物名	器種(部位)	色調	胎土	焼成	法量(cm <sup>3</sup> )は復元値・残存値		形態的特徴・調整など
							口径	底径	
1	S1 西壁7層	弥生土器	壺(口縁部)	外面:7.5YR6/8 黄橙 内面:7.5YR7/6 棕	2mm程度の砂粒含む	普通	(30.0)		外面:「く」の字口縁、口縁端部3条の凹缺、肩部に刷毛目 内面:ヨコナデ
2	S1 西壁7層	弥生土器	(底部)	外面:7.5YR8/4 淡黄橙 内面:10YR8/4 淡黄橙	1mm程度の砂粒含む	悪		7.0	外面 平底、摩滅の為、不明 内面 ケズリ
3	S1 西壁7層	弥生土器	高坏(脚部)	外面:10YR5/6 明黄褐 内面:10YR4/8 淡黄橙	1mm程度の砂粒含む	普通		(18.0)	外面:脚柱部の上下に11条の櫛描沈線帯がめぐる 内面:ヘラケズリ、ヨコナデ、円孔透かし
4	S1 西壁7層	弥生石器	礫石	外面:7.5YR8/2 白灰	石質(細粒砂岩)	幅、厚み4.0 残存長 7.4			立方体を呈し、5面を研ぎ面として利用、途中欠損
5	S1 南壁7層	弥生土器	壺(口縁部)	外面:2.5YB/6 黄 内面:2.5YB/4 淡黄	密	良	(14.0)		外面:口縁部(4条)、額部に凹線文がめぐる 内面:ヨコナデ
6	S1 南壁7層	弥生土器	壺(口縁部)	外面:2.5Y7/6 明黄褐 内面:2.5Y7/5 淡黄	2mm程度の砂粒含む	普通	(18.0)		外面:「く」の字口縁、ヨコナデ 内面:ヨコナデ
7	S1 南壁7層	弥生土器	高坏(口縁部)	外面:2.5YB/2 灰白 内面:2.5YB/4 淡黄	1mm程度の砂粒含む	普通	(20.0)		外面:平坦な口縁端面 内面:ヨコナデ
8	S1 南壁7層	弥生土器	高坏(脚部)	外面:7.5YR8/4 淡黄橙 内面:10YR7/4 にぶい淡黄	1mm程度の砂粒含む	普通	(16.4)		外面:縱方向にヘラミガキ 内面:ヘラケズリ、7箇所に円孔透かし
9	S1 南壁10層	弥生土器	高坏(体部)	外面:7.5YR7/6 棕 内面:10YR8/4 淡黄橙	1mm程度の砂粒含む	普通			外面:脚柱部に8条の櫛描沈線帯がめぐる、ヨコナデ 内面:ヨコナデ
10	S1	弥生土器	壺(頸部)	外面:10YR7/4 にぶい黄橙 内面:10YR8/3 淡黄橙	1mm程度の砂粒含む	普通			外面:頸部に1条の断面三角状の貼り付け凸帯がめぐる 内面:ヨコナデ
11	S1	弥生土器	壺(口縁部)	外面:7.5YR8/4 淡黄橙 内面:7.5YR8/4 淡黄橙	1mm程度の砂粒含む	普通	(33.0)		外面:「く」の字口縁、口縁端部3条の凹線、肩部に刷毛目 内面:ヨコナデ
12	S1	弥生土器	(底部)	外面:10YR8/4 淡黄橙 内面:10YR8/3 淡黄橙	1mm程度の砂粒含む	普通		(9.0)	外面:ヘラケズリ 内面:刷毛目
13	S1 下層	弥生土器	(把手)	外面:7.5YR8/4 淡黄橙	1mm程度の砂粒含む	普通			内面:指頭による圧痕 環状把手、途中欠損



図 36 出土遺物 ( $S=1/4$ )

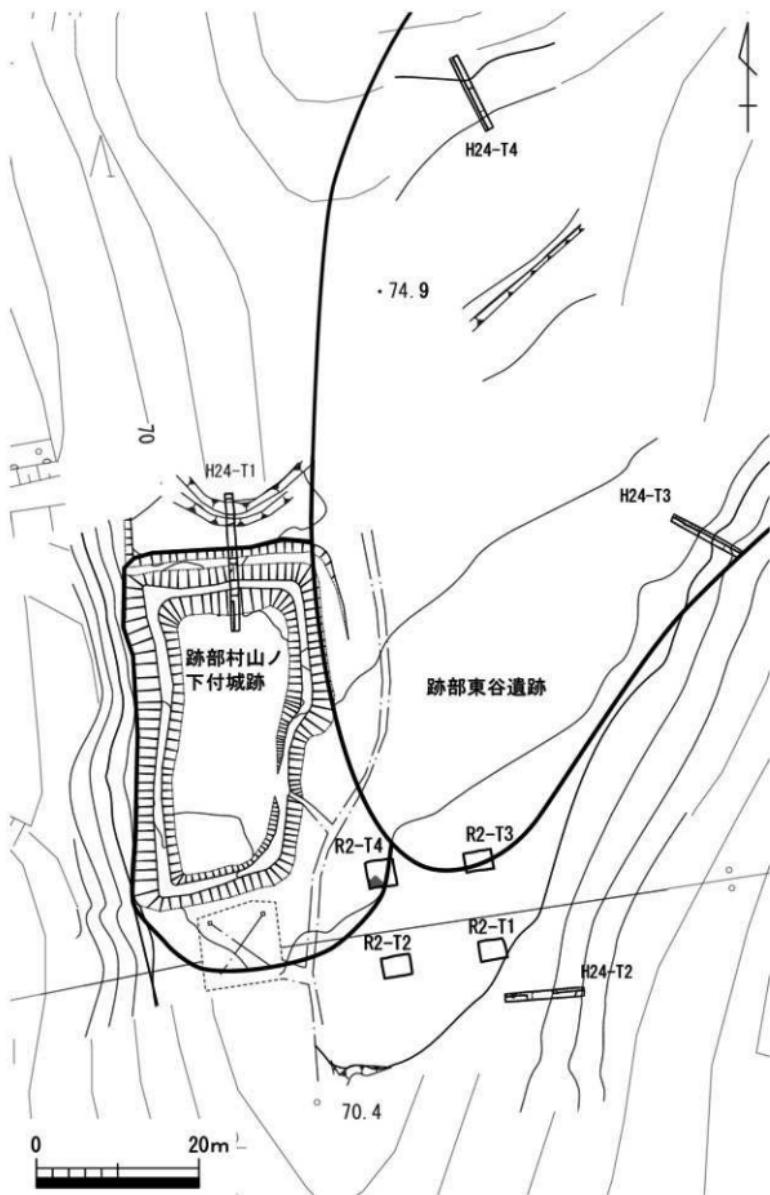
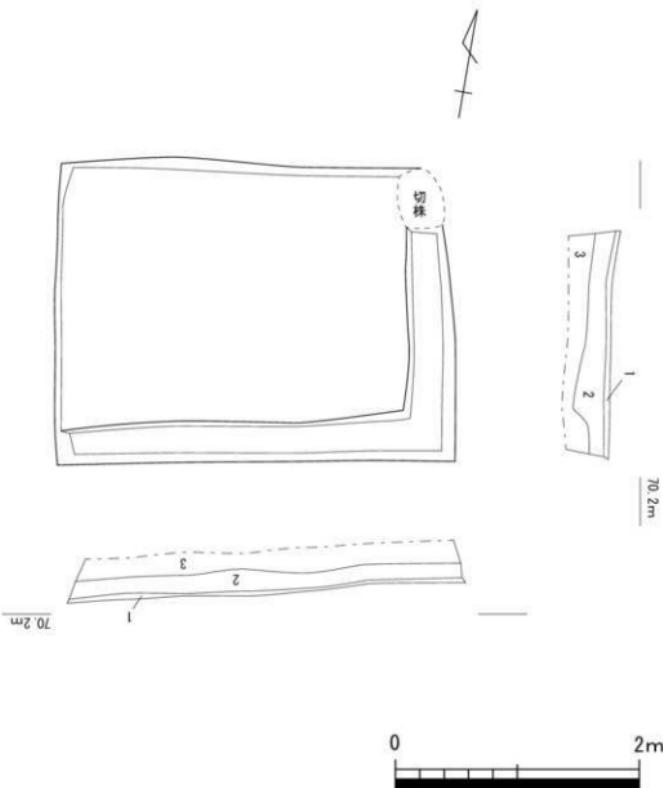
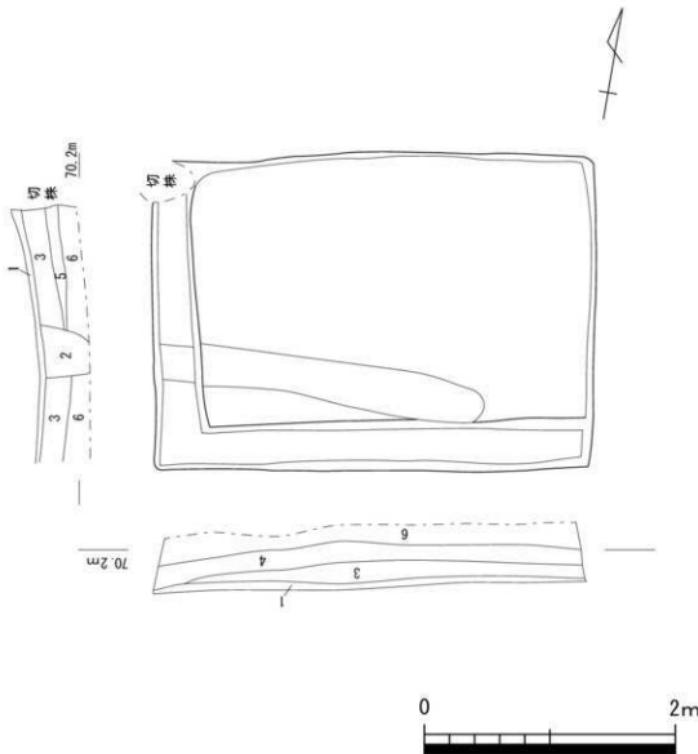


図 37 トレンチ配置図



- 1 表土  
 2 10YR5/6 黄褐色粘質土 (2~5cm程の礫をまばらに含む) <堆積土>  
 3 7.5YR5/8 明褐色粘質土 (1~5cm程の礫を密に含む) <地山>

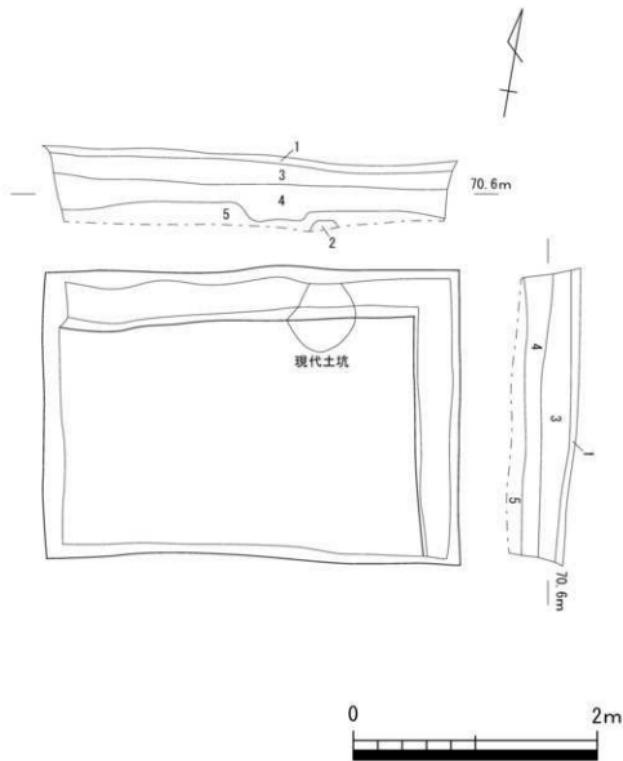
図38 T1 平面・断面図



1 表土  
 2 現在溝（アース埋設）  
 3 10YR5/6 黄褐色粘質土（2~5cm程の礫をまばらに含む）  
 4 7.5YR4/6 褐色粘質土（1~3cm程の礫をわずかに含む）  
 5 10YR5/8 黄褐色粘質土（1cm程の礫をわずかに含む）  
 6 7.5YR5/8 明褐色粘質土（1~8cm程の礫を密に含む）

} 堆積土  
 } 地山

図39 T2 平面・断面図



- 1 表土
- 2 現代土坑（不二家缶コーヒー含む、オーバーハング）
- 3 現代盛土
- 4 10YR5/6 黄褐色粘質土（1~5cm程の礫をまばらに含む）〈堆積土〉
- 5 7, 5YR5/8 明褐色粘質土（1~5cm程の礫を密に含む）〈地山〉

図40 T 3 平面・断面図

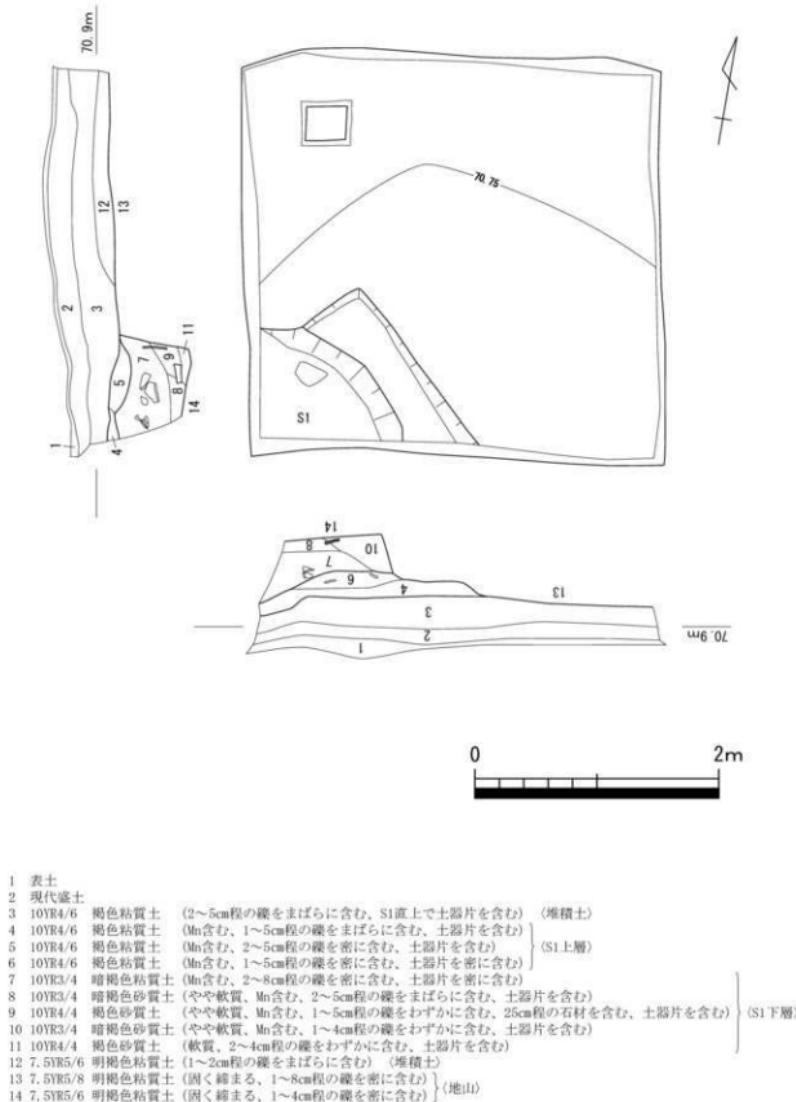


図41 T 4 平面・断面図

## 第4節 平井村中村間ノ山付城跡

### 1 所在地

三木市平井字北山 384-11

### 2 事業名

送電鉄塔の建て替え工事

### 3 事業者

関西電力送配電株式会社 電力  
システム技術センター

### 4 調査の種別

確認調査

### 5 調査期間

令和3年1月13日

### 6 調査面積

4 m<sup>2</sup>

### 7 調査方法

事業地内において、遺跡の内容を確認するため、南東側の鉄塔基礎部分1か所に2m×2mの調査グリッドを設定し、遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。

### 8 調査の結果（図43・44）

当遺跡は、三木合戦の際に築かれた織田方の付城跡と考えられる。特に天正6年（1578）7月末～8月中旬頃に織田信忠が主導し、羽柴秀吉等の軍勢が築いた平井山ノ上付城跡と同時期に築かれた可能性が指摘されている（金松2021）。城主は『播磨鑑』によると、竹中半兵衛重治とされている。

調査地は、主郭から北に延びる尾根の西側斜面に位置する。

G1では、地表下約60cmで明褐色粘質土の地山面を検出した。遺構・遺物は確認されなかった。この辺りには遺跡は広がっていないと考えられる。

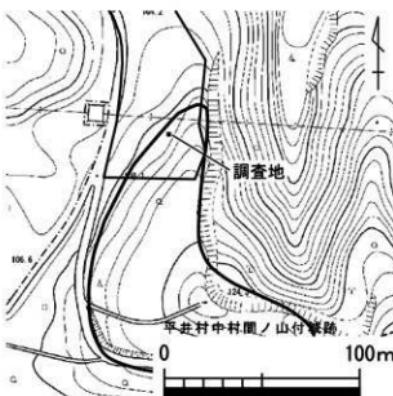
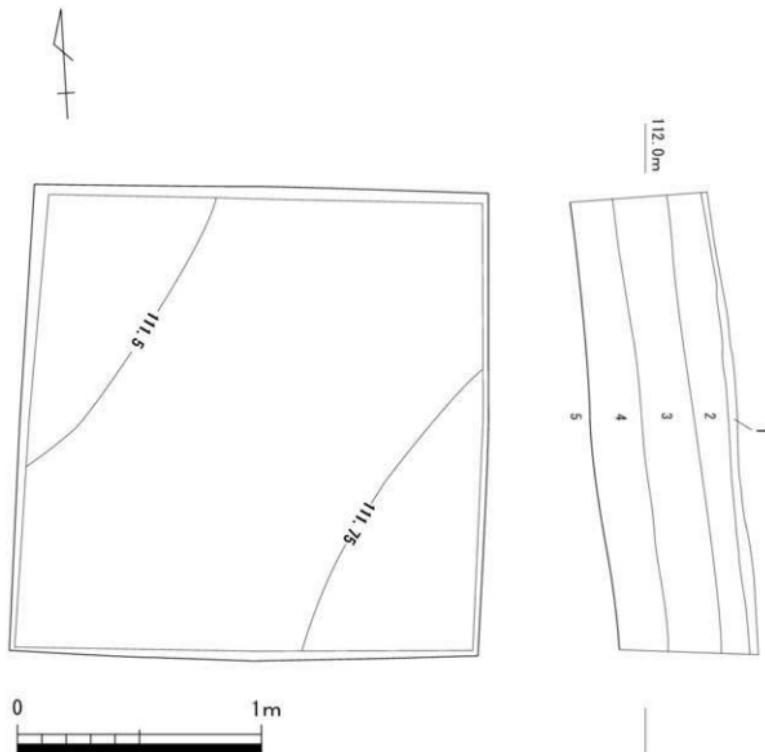


図42 位置図



図43 グリッド配置図



- 1 表土
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土（やや軟質）〈堆積土〉
- 3 10YR5/6 黄褐色粘質土（やや軟質）〈堆積土〉
- 4 7.5YR5/6 明褐色粘質土（2~5cm程の礫をわずかに含む）〈堆積土〉
- 5 7.5YR5/6 明褐色粘質土（固く締まる、Mn含む、2~5cm程の礫をまばらに含む）〈地山〉

図 44 G 1 平面・断面図

〈参考文献〉

- 大手前大学史学研究所 2007 『弥生土器集成と編年－播磨編－』オープン・リサーチ・センター研究報告第5号
- 金松誠 2020 「三木城の縄張構造に関する復元的研究」『みなぎの2－平成30・令和元年度 三木市立みき歴史資料館年報・紀要一』 三木市立みき歴史資料館
- 金松誠 2021 『秀吉の播磨攻めと城郭』 戻光祥出版
- 三木市教育委員会 1998 「跡部東谷遺跡発掘調査概要」『平成9年度 三木市社会教育活動状況報告書』
- 2001 『三木市遺跡分布地図－三木市内遺跡詳細分布調査報告書－』 三木市文化研究資料第17集
- 2015 『三木市 平成24～26年度国庫補助事業による発掘調査報告書』 三木市文化研究資料第29集
- 山崎信二 2008 『近世瓦の研究』 同成社

## 図 版





調査前全景（西から）



G1 全景（南西から）



G1 北東壁土層断面  
(南西から)



G2 全景（南西から）



G3 全景（南西から）



調査前全景（南から）



G1 全景（東から）



調査前全景（北から）



G1 全景（南から）



G2 全景（南から）



G3 全景（南から）



G4 全景（南から）



G5 全景（南から）



調査前全景（南東から）



G1 土層断面（南から）



G1 全景（西から）



調査前全景（西から）



T1全景（南から）



T1溝（南から）



G1 全景（東から）



G1 調査風景（西から）



調査前全景（南から）



搅乱検出状況全景  
(南から)



搅乱検出状況全景  
(北から)



T1 調査前全景  
(南から)



T1 土坑検出状況  
(西から)



T1 土坑半截状況  
(西から)



T1 土坑半截状況  
(拡張後)  
(西から)



T1 土坑完掘状況  
(西から)



T1 完掘状況全景  
(南から)



T2 調査前全景  
(北西から)



T2 地山検出状況  
(北東から)



T1 土坑出土遺物





G1 調査前全景  
(南から)



G1 全景  
(東から)



G1 西壁土層断面  
(東から)



T1 調査前  
(北西から)



T1 祭祀施設検出状況  
(西から)



T1 検出状況  
(西から)



T1 主体部搅乱  
(北から)



T1 主体部搅乱  
凝灰岩片出土状況  
(北から)



T1 主体部搅乱  
断ち割り土層断面  
(北から)



T2 表土除去後  
(西から)



T2 地山面検出状況  
(西から)



T2 畦東壁土層断面  
(東から)



T3 調査前  
(北から)



T3 墓丘検出状況  
(北から)



T3 断ち割り状況  
(南から)



T3 西壁土層断面  
(北東から)



T3 墓頂部土層断面  
(東から)



T1 主体部攪乱出土  
凝灰岩片



調査前全景  
(西から)



T1 地山面検出状況  
(北から)



T2 地山面検出状況  
(北から)



T3 地山面検出状況  
(西から)



T4 S1 検出状況  
(北から)



T4 S1 検出状況  
(北東から)



T4 S1 完掘状況  
(北から)



T4 S1 遺物出土状況  
(南西から)



T4 S1 南壁土層断面  
(北から)



T4 S1 西壁土層断面  
(東から)



T4 S1 完掘状況  
(北東から)



T4 S1 出土遺物



G1 遠景  
(北西から)



G1 地面検出状況  
(西から)

## 報告書抄録

ふりがな	みきしまいぞうぶんかざいはつくつちょうさほうこうしょーへいせい29ねんご~れいわ2ねんび
著名	三木市埋蔵文化財発掘調査報告書—平成29年度～令和2年度—
副著名	
巻次	
シリーズ名	三木市文化研究資料
シリーズ番号	第37集
編著者名	金松誠・中西信
編集機関	三木市教育委員会
所在地	〒672-0492 三木市上の丸町10番30号 TEL:0794-82-2000
発行年月日	令和5年(西暦2023) 3月31日

所轄道路名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	道路番号					
加佐町田道跡	三木市加佐字町田217番1	28215	160440	34° 48' 26"	134° 58' 50"	2017.5.11	12m <sup>2</sup>	個人住宅の建築工事
二木城跡	三木市本町1丁目997、994の一部、1003-10-10	28215	160380	34° 47' 57"	134° 59' 32"	2017.6.28	4m <sup>2</sup>	個人住宅の建築工事
平田東山塙道跡第2地点	三木市平田字東山塙397、413、414、415、416	28215	160437	34° 48' 33"	134° 58' 43"	2017.7.19	45m <sup>2</sup>	道路改良工事
加佐慶岸道跡	三木市加佐719-4、719-6	28215	160443	34° 48' 30"	134° 59' 07"	2017.11.13	6m <sup>2</sup>	道路改良工事
三木版新城跡	三木市上の丸町899番61	28215	160383	34° 47' 53"	134° 59' 26"	2018.3.28	6.4m <sup>2</sup>	個人住宅の建築工事
東這田東カチ散布地第1地点	三木市東這田字東カチ131番地	28215	160059	34° 47' 35"	134° 57' 36"	2018.8.27	7.8m <sup>2</sup>	個人住宅の建て替え工事
三木版新城跡	三木市上の丸町899番70	28215	160383	34° 47' 54"	134° 59' 23"	2019.3.12	4m <sup>2</sup>	個人住宅の新築工事
東這田前山散布地	明所町西這田字口山567-31他	28215	160058	34° 47' 26"	134° 57' 21"	2019.6.14	9.3m <sup>2</sup>	送電鉄塔の建て替え工事
恵比須駅東道跡	三木市宿原字寺之前28番1	28215	160390	34° 47' 49"	135° 00' 01"	2019.10.24	4m <sup>2</sup>	個人住宅の新築工事
宿原城跡	三木市宿原字門前西1038番2	28215	160592	34° 47' 56"	135° 00' 05"	2020.11.13	6m <sup>2</sup>	寺院建物の増築工事
平井1号墳	三木市平井字笠カナ353-68、353-70	28215	160874	34° 48' 46"	135° 00' 31"	2020.11.17~2021.1.14	29m <sup>2</sup>	送電鉄塔の建て替え工事

三木市鶴部字裏山289-2~4, 289-13~15, 宇池ノ谷193-1, 193-2, 194, 195, 200, 201-1, 202-1	28215	160470	34° 48' 45"	134° 59' 13"	2020.12.9~ 2021.1.11	35mf	送電鉄塔の建て替え工事
三木市平井字北山384-11	28215	160550	34° 48' 45"	135° 00' 57"	2021.1.13	4mf	送電鉄塔の建て替え工事
三木市鶴部字裏山289-14	28215	160470	34° 48' 45"	134° 59' 13"	2021.3.2~ 2021.3.5	12.25mf	送電鉄塔の建て替え工事
所収道路名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
加佐町田道跡	散布地	奈良時代~平安時代	なし	なし			
三木城跡	城館跡	室町時代~江戸時代	なし	なし			
平田東山頃道跡第2地点	散布地	不明	なし	なし			
加佐廣川道跡	城館跡	室町時代~江戸時代	なし	なし			
三木城新城跡	散布地	不明	溝	なし			
東這田東力子散布地第1地点	散布地	平安時代	なし	なし			
三木城新城跡	城館跡	室町時代~江戸時代	なし	なし			
東這田前山散布地	散布地	平安時代	土坑	瓦、瓦質土器、磁器			
恵比須駅東道跡	散布地	奈良時代	なし	なし			
宿原城跡	城館跡	中世	なし	なし			
平井1号墳	古墳	古墳時代	主体部	須恵器、石製品			
鶴部村山ノ下付城跡	城館跡	弥生時代中期、戰国時代	壁穴住居	弥生土器、須恵器			
鶴部東谷道跡	集落跡	弥生時代後期					
平井村中村間ノ山村城跡	城館跡	戰国時代	なし	なし			
鶴部村山ノ下付城跡	城館跡	弥生時代中期、戰国時代	壁穴住居	弥生土器			

三木市文化研究資料 第37集

三木市埋蔵文化財発掘調査報告書

—平成29年度～令和2年度—

令和5年3月31日発行

編集・発行 三木市教育委員会

〒673-0492

兵庫県三木市上の丸町10番30号

印 刷 小野高速印刷株式会社

